



《特集1》 国内初 コスメティックサイエンス学環、誕生

《特集2》 ネーミングライツがつくる企業とキャンパスの新関係

● 社会で輝く先輩からのメッセージ

● 教育・研究 Report

- ◎ 地域にある課題や魅力を発見し デザインの力で地域の価値を高めたい
- ◎ 社会課題研究センター「みんなの大学」など 経済学で佐賀や九州の地域に貢献する
- ◎ 新しい材料で次世代太陽電池を開発し エネルギーと環境問題の解決に貢献

● イキイキ佐大生／イラストレーター 玉白花

● お知らせ



読者プレゼント



国内初 コスメティック サイエンス学環、誕生

2026 年春、佐賀大学は化粧品を深く広く研究する「コスメティックサイエンス学環」を開設します。
国内初の取り組みで、全国からも注目される学環が誕生した背景など、鯉川学環長、徳留教授に聞きました。
また現役の学生たちにも、化粧品を研究する面白さについて語ってもらいました。



コスメティックサイエンス学環長・教授

鯉川 雅之 KOIKAWA Masayuki

教育・学生担当理事(副学長)、理工学部教授。金属錯体化学が専門。金属錯体(金属酵素)は、活性酸素から体を守りメラニン生成にも関与するもの。学環では「生物無機化学」を担当

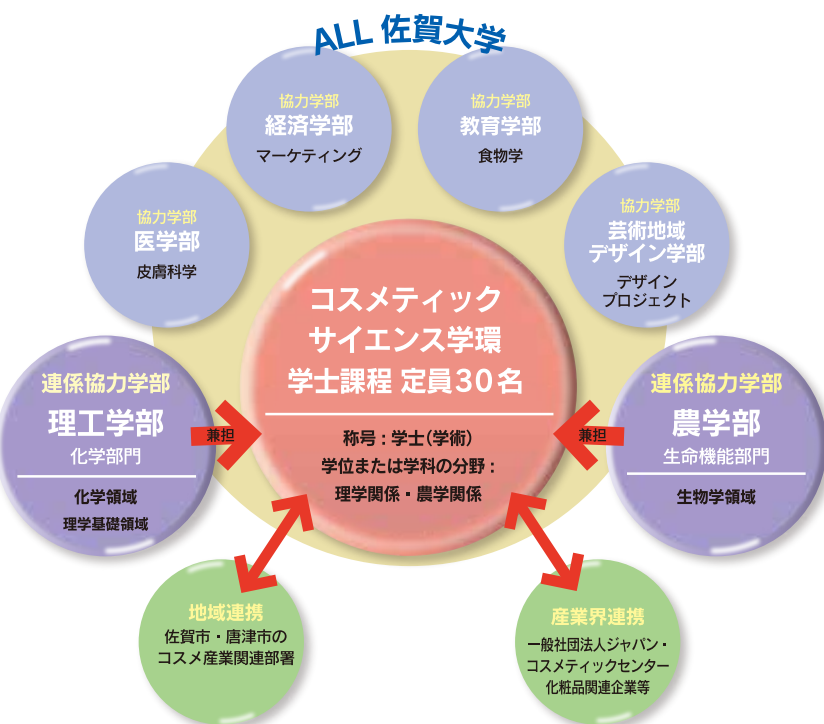
「地域とともに発展し 続ける大学」として、 佐賀県のコスメ構想と 高校生の夢に応える

本学では、大学の将来構想である「佐賀大学ビジョン2030」に基づき、急速に変化する社会にも対応できる、新しい教育の構想に取り組んできました。一方、佐賀県では北部九州に化粧品産業の拠点を作ろうとする「コスメティック構想」が進んでいました。産官学連携で、本学にも大手化粧品会社研究職の経験を持つ徳留教授が着任し、「化粧品科学講座」がスタート。さらに教授らの活動から、県内の高校生の化粧品への関心が非常に高いことも分かったのです。化粧品教育の場づくりへ一気に追い風が吹き、国内で初となる「コスメティックサイエンス学環」誕生へとつながりました。

開発の仕事がしたいけど、どの学部を選べば良いか分からなくて悩んでいたという声が多かった」と鯉川学環長。化粧品業界やメディアからも注目され、取材の問合せが続いています。

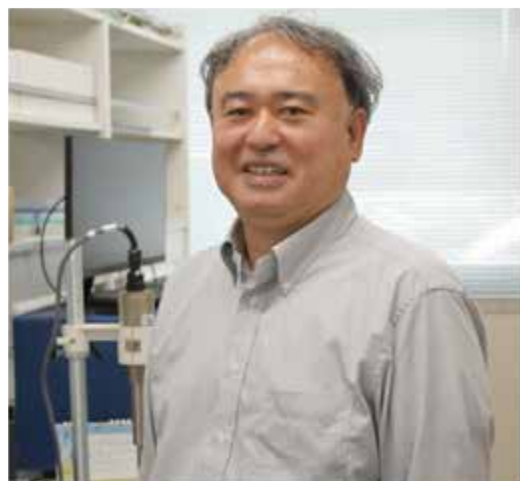
オール佐賀大学で臨む 新しく柔軟な「学環」

「学環」は正式に「学部等連係課程」といい、令和元年度の大学設置基準の一部改正から導入されたシステムです。複数の学部が連携して教育課程を構成するため、一から新学部を立ち上げるより、柔軟かつスピーディに対応できる有効な仕組みとされています。コスメティックサイエンス学環の学びには全学部が関わり、オール佐賀大学の体制で臨みます。その調整には、鯉川学環長も尽力されました。「大変でしたが、今後他の学問分野での学環開設もあるかもしれませんね」



全員一致で、コスメティックサイエンス学環に決まりました」
化粧品は、安全性や品質管理が学びの重要なテーマです。「成分や作用について化学・生物学・医学から体系的に学び、製造・流通・評価、規制などあらゆる側面に見識を持ち、いろいろな分野へ羽ばたいていける人の育成を目指します。皆さんと共に『コスメティックサイエンス』という学問領域を切り開いていけることを、心から楽しみにしています」

今を一所懸命がんばる 人へ、新しい学環で 化粧品研究の大切さを 伝えていきたい



コスメティックサイエンス学環 教授

徳留 嘉寛 TOKUDOME Yoshihiro

大手化粧品会社の研究職を経て関東の大学で化粧品学を教える。佐賀県コスメティック構想を機に本学へ。「コスメティックサイエンス概論」などコア科目を担当

一人の学生が、理工学系の化学、農学系の生物学、医学系の知識などを広く学ぶことができるコスメティックサイエンス学環。それぞれ独立した学部が「化粧品」というテーマでフラットにつながっています。

「化粧品」の学びは、多岐に渡ります。何か一つに特化すればいいのではなく、化学、生物学、そして医学も欠かせない要素です」と学環を牽引する徳留先生はいいいます。先生は薬学部出身で、幅広い知識が必要な点は薬学と似ているそう。さらに化粧品は、消費者にとってより身近な商品であるため、世の中のトレンドやコミュニケーションの知識も重要です。そのためマーケティングやパッケージデザインも講義に含まれます。「結果、学環の教育課程を作



(上)デコポンなど佐賀県産の柑橘類など天然資源を研究に活用(イメージ)。(下)唐津の柑橘類と佐賀県産と他県産のイチゴの抽出成分

るのに、全学部から協力いただくことになりました。連携しない学部がないことが、すごいと思います」
有効性と安全性の両面をサイエンスとして学ぶ
化粧品の研究開発は近年スキンケアが中心で、ますます発展し薬用化粧品に近付いているといいます。ただ効果があるということは、副作用も考慮しなくてはなりません。例えば美白化粧品は肌を白くしますが、肌が白くなるということは体に何かしらの影響を与えているということ。体に悪影響を示す可能性もあるという認識は極めて重要なのですが、消費者はもとより、美容関係者が知らないこともあるそうです。

「本学環ではコスメティックサイエンスとして、その両面を教えます。消費者の安心と安全を守るのも私たちの務めです。きれいになりたくて化粧品を使うのに健康被害を出してはいけません。化粧品の有効性と問題の可能性、その全体を理解する人の育成が使命です。『そんな人が増えたら業界の未来は明るい。佐賀大学はその総本山となり得ます』

コスメティックサイエンス学環 カリキュラム例

1年次 コスメティックサイエンス概論、有機化学、生化学(コア科目)、化学概説、生物学概説(基礎科目)、英語(教養教育科目)、無機化学(理学系)、コスメ文化論(学環周辺科目)、他

2年次 コスメ開発論、コスメティックサイエンス実験、天然物化学、皮膚科学(コア科目)、分析化学(理学系)、植物生理学、分子生物学(農学系)、食物学

(学環周辺科目)、他
3年次 機器分析学、コロイド・界面化学、微生物学、生理学(コア科目)、生物無機化学、化学熱力学(理学系)、酵素化学(農学系)、知的財産法、毒性学、マーケティングマネジメント、デザインプロジェクト演習(学環周辺科目)、他

4年次 卒業研究

ちの務めです。きれいになりたくて化粧品を使うのに健康被害を出してはいけません。化粧品の有効性と問題の可能性、その全体を理解する人の育成が使命です。『そんな人が増えたら業界の未来は明るい。佐賀大学はその総本山となり得ます』

化粧品をきつかけに それぞれの未来へ

徳留先生の研究室へ、化粧品業界を志す高校生が訪ねてくることもあるそうです。学環もそのような思いが強い人、また今を一所懸命にがんばる人を求めています。化粧品をテーマに広く学ぶことで、さまざまな分野に興味湧き、対応力も身に付くはずと先生。そして「自分たちは何でもできる」ことを知り、研究開発に限らず、行きたい未来へ進めるようにと願っています。



左から先進健康科学研究科 修士2年 真茅紗那さん、平川紗妃さん、理工学部理工学科生命化学コース4年 和田珠来さん、天野由惟さん。徳留先生の研究室に所属、全員が佐賀県出身

コスメ県でコスメを学べる 佐賀大学だけの魅力

徳留先生の研究室で学生の皆さんにお話を聞きました。化粧品の経皮吸収の効果を測定する機器などあり、環境は整っているといえます。自分の研究テーマを進めながら、先生の化粧品メーカーでの経験談を聞けるのも興味深いそう。

化粧品に興味を持ったきっかけは、「肌荒れを化粧品で克服した経験があります。肌の悩みは年齢も性別も関係ない、やりがいがあります」部活動で

日焼けして肌が荒れた時、美白化粧品で綺麗になって、化粧品に興味を持ちました」という自身の経験から。また「今はスキンケアがトレンドで最先端。重要視されているんですよ」「化粧品にコンプレックスを救われたから、私も開発した化粧品で自信を持てる人を増やしたい」というポジティブな声もありました。

先生の指導のもと、美容成分の肌への浸透性の評価や吸収を促進する研究を行なっています。中には「化粧品と関係のないようなものが素材として有効なのが面白い」と、うれしの茶抽出成分や石の浸出液の研究も。「佐賀の特産品を扱うのも面白い。ここで地元の素材に特化した研究をしながら、有名な化粧品会社とつながりのある先生を介して、全国的に広げられるかもしれない」という野望も聞くことができました。

「ふだん使っている化粧品は、ネットやドラッグストアで成分を見て気になるもの、流行の韓国コスメも買います。クチコミが微妙でも試すこともあります」。また「ビタミンCやA、レチノール入りの化粧水や美容液を試したら、肌が綺麗になりました」と言い、大学生のきれいな肌でも変わるのかと聞くと「変わります！」と力強い返答をいただきました。

来年開講するコスメティックサイエンス学環について、「今まで化粧品をメインとする学部相当課程はどこにもなかった。学部時代から専門的に勉強できるのはとてもいい」「県がコスメを推している、大学で専門的なコスメ研究ができるのは日本の国立大学で唯一佐賀だけ。すごい魅力だと思います」



コスメティックサイエンス学環のウェブサイト

コスメティックサイエンス学環が養成する人材像

化粧品産業を担う人材、化学物質の安全管理・適正利用を担う人材、学際的な素養を持つイノベーション人材

予想される進路

化粧品産業、食料品・飲料産業、化学関連産業、公務員(自治体の産業振興部門など)、大学院進学 など

2026年度 入試情報

- 定員 30名(特別選抜/総合型選抜Ⅱ: 7名、一般選抜: 前期日程 18名、後期日程 5名)
 - 特別選抜/総合型選抜Ⅱ: 大学入学共通テスト+書類審査
 - 一般選抜(前期・後期日程): 大学入学共通テスト+個別試験+特色加点
- 入試日程はこちらでご確認ください。
https://www.sao.saga-u.ac.jp/ga-kubu/nyuushi_gaiyou.html

愛称：Mizota kitchen
対象施設：かささぎホール（本庄キャンパス）



ネーミングライツがつくる 企業とキャンパスの新関係

つながる場所、ひろがる未来

左から株式会社ミゾタ諸岡総務部次長、井田取締役社長、佐賀大学児玉前学長、西郡前理事、田中理事

効果的なリクルーティング
ツールとして注目

令和6年4月に佐賀大学はネーミングライツパートナーの募集を開始しました。対象施設は建物単位、室単位、外部空間の3つのバリエーションがあります。建物単位は2百万円から、室単位は20万円、外部空間は10万円からの価格設定となっており、これまでに6社の企業様と契約を結んでいます。

企業のPRはもちろん、効果的なリクルーティングの手段として現在大きな注目を集めているネーミングライツパートナー。この度、新たに6社の企業様との契約を結びました。

Partner 株式会社ミゾタ

令和6年4月に募集が開始されて以来、初めての建物単位での契約となりました。学生たちが食を通じて力を蓄え、仲間と語らい、新たな挑戦へと踏み出していき、未来を形づくる創造の場になって欲しいという願いが込められています。（上写真）

ネーミングライツがつくる企業とキャンパスの新関係

つながる場所、ひろがる未来

学生の皆さんが自由に集い、互いの経験や価値観を共有できる空間を意味する「Space」と、2046年「月に穴を掘る」ことを目標に、宇宙関連の技術開発に取り組まれていることから、宇宙の「Space」の意味も兼ねて、「YBM SPACE」という愛称が名付けられました。

Partner 株式会社ワイビーエム



愛称：Nihon Shinko Cafeteria
対象施設：かささぎホール1階食堂
(本庄キャンパス)

本学の教育研究環境の向上に貢献すると同時に、学生や教職員、地域の方々に自社について知っていただくことを目的にご契約いただきました。愛称には社名が冠されています。

Partner 日本振興株式会社九州支店



愛称：あさぬまホール
対象施設：理工学部6号館1階
コミュニケーションホール(本庄キャンパス)

愛称は会社名と元々の施設名のコミュニケーションホールを組み合わせて「あさぬまホール」と名付けられました。自社の認知度を高め、社会の安全・安心・快適の増進に貢献するという思いに共感する学生を求められています。

Partner 株式会社浅沼組



愛称：YBM SPACE
対象施設：理工学部1号館南棟2階
コミュニティスペース(本庄キャンパス)

2箇所目の愛称は、自らが手掛ける人と文化をつなぐ橋梁のように、佐賀大学で学ぶ学生たちが、この部屋で先生方や学友たちと語り合い、互いの時間を共有しながら充実した日々を送る架け橋になって欲しいという願いが込められています。



愛称：NAMURA MANABI PORT
対象施設：理工学部大学院棟1階
101 講義室(本庄キャンパス)

今回2箇所をご契約いただいています。1箇所目の愛称は、名村造船所の岸壁から世界の港へ旅立っていく新造船のように、この教室で学び育った学生たちが、無限の可能性を秘めて佐賀大学から旅立ち、佐賀県内や日本全国、また世界中で活躍して欲しいという願いを込めて名付けられています。

Partner 株式会社名村造船所伊万里事業所



愛称：Dengi ホール
対象施設：理工学部6号館1階
都市工学科大講義室(本庄キャンパス)

以前より「電技」という愛称で親しまれていることから「電技」と大講義室(ホール)を組み合わせて「Dengi ホール」と名付けられました。エネルギーの安定供給と環境保全の調和を通じて、地域社会の発展に賛同できる学生を必要とされています。

Partner 九州電技開発株式会社



愛称：NAMURA KAKEHASHI ROOM
対象施設：理工学部3号館3階
リフレッシュルーム(本庄キャンパス)

社会で輝く 先輩からの メッセージ

2024年度の卒業生・修了生の

就職率は

99.6%(2025年5月1日現在)

と近年高い水準を維持しています。

いま社会で活躍している本学のOB・OGから

就職を目指す在学生へのメッセージを紹介します。



佐賀大学公式 マスコットキャラクター

名前	カッチーくん
性別	オス
誕生日	2月29日
年齢	ひみつ
好きなもの	いちご
苦手なもの	グリンピース、うめぼし
性格	心優しく、天然系。 でも好奇心は、鳥一倍

「強みや関心事を認識して

自分に合う業界・就職先へ」



私は学部時代、専門以外にも、教育やデジタル表現技術の分野等にも興味を持ち、幅広く知識を深めました。サークル活動(映像制作・軽音楽・書道)においては、最高の仲間と共に学び、充実した時間を過ごしました。

と思い入庁しました。昨年まで健康福祉部のDX(※1)の担当をしていました。大学院で学んだデータクレンジング(※2)が業務効率化に大いに役立ち、2年間で265件の業務改善の相談を受け累計6560時間以上の業務時間の削減を実現できました。今後さらにスキルや知識を深め、より高いレベルで業務を遂行できるよう成長したいと考えています。

また、大学生活を振り返ると、語学を学べばよかったと感じます。語学力が身につくことで、国際的な視野が広がり、将来の選択肢も大きく広がると思います。

学生の皆さんには、旅行や留学など、今だからこそできる経験を積極的にしてほしいと思います。



古川 将大
FURUKAWA Shota
佐世保南高等学校
教育学研究科
(理工学部物理科学科)
2015年修了
佐賀県庁

※1: デジタル技術を活用した業務改善
※2: データの誤記や重複などの不備を修正し、データの正確性を高める作業



地元で貢献できるような仕事でした。大学職員のことを知りました。教育の現場にしながら、地域に貢献できる仕事だと魅力を感じました。中でも、佐賀大学は「地域に開かれた大学」を目標に掲げています。より地元で貢献できると思いました。

現在は、社会連携課で学内教員と企業・自治体など外部機関との研究契約の調整・締結・管理を担当。契約書の作成・確認、研究費の請求・管理、進捗確認など、研究活動が円滑に進むようサポートしています。

学生時代は卓球部に所属し、年の近い先輩や後輩のほか、年の離れた先輩たちや関係者と関わることも多くあり

「素直さ」と「聞く力」が大切。
人との関わりが支えてくれる」



ました。その時の経験が、職場での円滑なコミュニケーションにつながっていると思います。ただあまり活動的な性格ではなかったため、特別な経験のないまま社会人になった気がします。ボランティアやインターシップ、アルバイト、友人との旅行など、とにかくもつといういろいろな経験をしておきたかったです。私は、学生時代の経験というのは必ず社会人になって役立つと思うので、皆さんはぜひいろいろな経験を積んでください。

今は教員の研究を支援する立場で仕事をしています。今後は、もつと教職員に頼ってもらえるような職員を目指したい。そのために、まずは自分の仕事に対する理解を深めたいと考えています。



中学の職場体験で子育て支援センターに行き、出産後の女性を支える必要性を強く感じて、助産師が夢になりました。高校時代はバレーボールに熱中しました。朝早く登校してトレーニングし、早弁して体育館へ行き、放課後は部室へダッシュ。仲間と一緒に汗を流した日々は、試練を乗り越える自信へと繋がりました。

す。今は看護師の基礎を身に付けるため、産婦人科や婦人科、泌尿器科などの患者さんを担当。時には妊婦や出産後の母、赤ちゃんを担当し、先輩から助言をいただきながら学んでいます。

佐賀大学に入学し、助産師試験に合格するための試験が始まりました。容易ではなかったけれど、選んだ道を信じ、仲間にも支えられて無事合格。スタートラインに立って助産師への憧れはさらに膨らみました。実習で助産師さんたちの姿に惚れ惚れし、自分の道を確信したほどで

これからも現状に満足せず、自分の無知さと好奇心に、貪欲でありたいと思っています。

「自分に嘘をつかず、好き」と思える瞬間が多いものを探し続けましょう」



地域にある課題や魅力を発見し デザインの力で地域の価値を高めたい

芸術地域デザイン学部 地域デザインコース 准教授

阿部 浩之 ABE Hiroyuki



パッケージデザインなど 実践プロジェクトが豊富

「芸術」と「地域デザイン」の分野で、情報デザインや芸術などの授業を担当しています。私自身は関東出身で、武蔵野美術大学で現代美術や彫刻、デザインなどを幅広く学び、造形で修士を取得しました。卒業後はサイバーエージェントというIT企業にウェブデザイナーとして入社し、10年ほど勤務。いろいろなサービスのUI/UXデザイン（ユーザーが使いやすいシステムやビジュアルの設計）を手がけました。

佐賀大学の教員になったのは、2020年のこと。佐賀を中心とした北部九州を主なフィールドとして、ブランディングやパッケージデザイン、サービスデザインの分野で、デザインを用いた地域の課題解決や価値づくりの実践を行っています。現在はゼミ生約30人をはじめ、40人ほどの学生と一緒に活動しています。

実践的な授業の一例をご紹介します。県産品の販売

促進を目指す「さが県産品流通デザイン公社」は、佐賀国際空港内のスーベニアショップ「sagar」(サガエア)を運営されています。同公社と連携して、2023年度には県産品のPRを行うポップアップスペースを学生がデザインしました。2024年度には唐津にある老舗の和洋菓子屋「昭月堂」をご紹介いただき、4か月かけて学生とプ



ロジエクトに取り組みしました。昭月堂の名物のひとつ「焦がし醤油パイ」のパッケージを、国内外から訪れる空港利用者で購入したくなるものにリニューアルするという内容でした。

私の授業の最大の特徴は、単にデザインするだけではなくことです。学生は唐津の松原を歩いたり、実際にお店に行ったりするところからス



昭月堂の「焦がし醤油パイ」のパッケージとして、学生たちがデザインしてファイナリストに残った作品(写真上)。高級感がポイントになり、左下の緑のパッケージが採用された

タート。昭月堂のオーナーシェフに授業に来てもらい、唐津でお店を開いた理由や商品のコンセプトなどを聞き、醤油パイの試食もしました。学生には、地域や歴史などを含め広くりサーチして、地域の魅力や価値をブランディングした上で、パッケージデザインに反映するように働きかけました。そして、一人ひとりが試行錯誤の末、個性あふ



ACP プロジェクトでは、高齢者施設でヒアリングやテストをすることで見えた課題を改善

命を長らえる医療が行われている。そんな現状を変えるべく、本人が元気なうちにカードゲーム形式で意思を確認しておこうと、医学部からカードのイラスト作成の依頼がありました。しかし、話をしていくうちにサイビス全体をデザインした方がいいと思います、本人

れる18作品が完成。事前審査で選ばれたファイナリスト5人は、sagairで公開プレゼンテーションを行い、実際にパッケージに採用する1作品が決まりました。学生からは「世の中がデザインであふれていることが分かった」「ヒアリングやりサーチをしつかりすることで、いいデザインを作ることができた」「デザイナーはいろいろなことをしなければいけなくて、それが楽しかった」などの感想が聞かれました。

人の尊厳を守る取り組みを医学部と共に進行中

現在、佐賀大学の医学部とACPに関するプロジェクトを進めています。「ACP (Advance Care Planning)」とは、人生の終末期にどんな医療やケアを受けたいか、本人の意思を事前に確認しておく取り組みで、欧米では一般的なのに日本では全く浸透していません。その結果、本人が望んでいるか分からな

デザインを広く捉え地域や人に価値を届ける

の意思を表示して飾っておけるオブジェを提案したところ、喜ばれました。今は実際に形にするために動いている段階です。総合大学ならではのやりがいも感じています。



私が東京で働いているときは、パソコンの前でデザインをしていました。しかし、地域で求められているのは、ただ作るだけのデザイナーではありません。地域のことを調べて、現地に足を運び五感で感じ、話を聞いた上で、課題



阿部先生は、学生時代から今まで作家としての活動も継続。国内外で制作や展覧会、ワークショップなどを行っている

や魅力を発見してデザインすることが大切なのです。皆さんと共創しながら、地域や人に価値を届けることが、地域におけるデザイナーの役割だと実感しています。最近、九州各地や東京などのいろいろな企業や団体等から連携のお話をいただくことも増えてきました。

域の価値を高めていく。地方大学のデザイン研究室だからこそできることがあり、その可能性は大きく広がっている。今、佐賀に生まれて驚いたのは、大学と行政や企業の距離がとても近く、連携しやすいことです。皆さんがオープンで、人とのつながりがどんどん広がっていきます。地域に根差し、人とつながりながら、地域

社会課題研究センター「みんなの大学」など 経済学で佐賀や九州の地域に貢献する

経済学部 経済学科 教授／社会課題研究センター長

蘭田 竜之介 SONODA Ryunosuke



地域課題や学生の研究を 経済学で支援する

国全体の経済成長率などを検証する、マクロ経済学を専門としています。景気変動した時、働く人々の賃金はどうなるのか。その所得分配の動向が、社会経済にどう影響を及ぼしていくのか。またそれらのメカニズムなどを研究しています。

経済学部では、学部の1年生が受講する「基本マクロ経済学」「日本経済論」といった講義を担当しています。中には教育学部の学生もいますが、基本的には全学部の学生が社会へ出る前に知っておいた方がいい内容であると思います。

経済学部には「社会課題研究センター」という、佐賀や九州の地域経済など幅広い社会問題に関する研究と教育を推進することを目的とした組織があり、現在センター長を務めています。1980年代にスタートした地域経済研究センターが前身で、5年前に現在の名称となりました。センターでは佐賀県内の各市と連携して、「佐賀地域経済研究

会」を運営しています。持ち回りで各市の地域課題を分析、研究を行い、その成果を講演会などで佐賀県全体へ共有します。教員も調査研究の一部としてこの活動に協力しており、論文へと発展するケースもあります。

「学生チャレンジ地域連携プロジェクト」という

制度もあり、経済学部の学生が、地域経済に関する研究を進めるための支援を行なっています。また「社会課題演習」という1年生の授業に、地元企業や自治体でご活躍の方などを外部講師としてお招きし、講義をいただいています。学生が地域社会に関心を持ち、主体的に関わるよう推進しています。



「みんなの大学」では 市民受講生から刺激も

社会課題研究センターでは「みんなの大学」という市民講座を開講しています。長年に渡って、地域の皆さんに大学で研究・教育されている学問の一端をご紹介してきました。当初は市内のサテライト会場で行い、2008年から学内

に場所を移しています。

経済学部の教員がリレー形式で専門領域について講義を行ったり、地元企業や団体の方に講師としてお話しいただいたり、また座学だけでなく日帰りの社会見学も実施しています。今年度は5月から12月まで、90分の講座を20回設定しました。火曜・水曜・木曜の3クラスあり、定員35名のところ50名近い受講生



①「みんなの大学」の講義風景。②社会課題研究センターで「みんなの大学」など活動を長年支える職員の水曜・木曜の3クラスあり、定員35名のところ50名近い受講生



が集まったクラスもあります。ありがたいことに受講された方からご好評の声を多数いただいております、何度でも参加のリピーターの方もいらつしやいます。70代前後の方が多く、長年の社会人経験から経済を自分ごとと

捉えておられるので、質問も積極的です。教員が刺激を受けることもしばしばあります。留学生による日本語スピーチコンテストも開催しています。20代の留学生と70代の受講者が交流し、世代を超えて親しくなられる様

子は微笑ましいかぎりです。「みんなの大学」の運営は、サテライト会場時代から当センター職員の前田智子さんが担当講座の企画から受講生のお世話まで、こまやかに対応いただいて本当に感謝しております。



①前田先生のゼミでは、毎年韓国でゼミ合宿を開催。写真はホテル前での記念撮影。②一緒に合宿を行った、関西大学、芝浦工業大学の学生たちと。③合宿で訪問する仁川国立大学にて。ゼミ生は英語で研究発表を行う

経済は人間のすべての活動に関係する

経済学部は、まさにその幅の広さ。社会課題研究センターの活動が多岐にわたるのが最たる例です。日常

の買い物のような小さな行為から世界貿易のような大きな話まで、人間の活動のすべてが経済学の分析対象となります。そのため経済を理解していくには、さまざまな側面から社会を見る必要があります。さらに社会は常に変化し続けており、そこが難しいところで、同時に面白いところです。私は20年以上雇用制度などを研究していますが、この間社会はさまざまに変化し、新しい課題が現れ続けています。日本では当たり前だった就職の新

卒一括採用も、他国から見れば特殊です。未経験者を採用すると、その人が仕事に慣れるまで時間がかかります。しかし日本ではこれまで、まったく新人を採用し、時間をかけて企業色に染めていくのが主流でした。私たちの当たり前は、世界とは違うのです。そこが強みにもなり、企業が自社の強みとするものは、国の経済の強みにつながります。一つひとつつながり、日常と経済が結びついていることが見えてくると、経済がグッと面白くなります。ぜひ学生の皆さんに興味を持ってもらいたいものです。

受験生の皆さんには、社会科学はもろろんのこと、国語、数学、理科、英語といった高校の学びのすべてが経済学に関係すると伝えたいです。日常の買い物も経済活動であるように、世の中に経済と関係のない話はありません。例えばあなたの好きなことから、経済の方へ視野を広げてみませんか。何にでも関心を持ち、意欲的に学ぼうとする人にとって、きっと興味深い学問です。佐賀大学経済学部は、そのような学生を歓迎します。

新しい材料で次世代太陽電池を開発し エネルギーと環境問題の解決に貢献

理工学部 理工学科 電気電子工学部門 教授

田中 徹 TANAKA Tooru



半導体と光をテーマとして 太陽電池と水素生成を研究

私の研究室では、「半導体」と「光」をキーワードに、エネルギー問題や環境問題の解決に資する光デバイス（半導体素子）の開発を行っています。特に最近では、次世代太陽電池の開発、半導体と太陽光を用いた水素生成に関する研究に取り組んでいます。

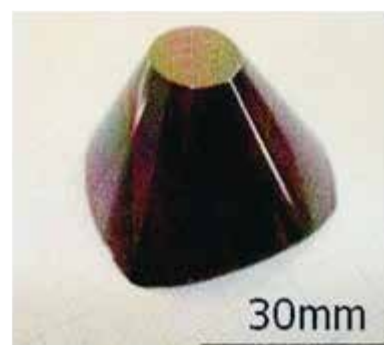
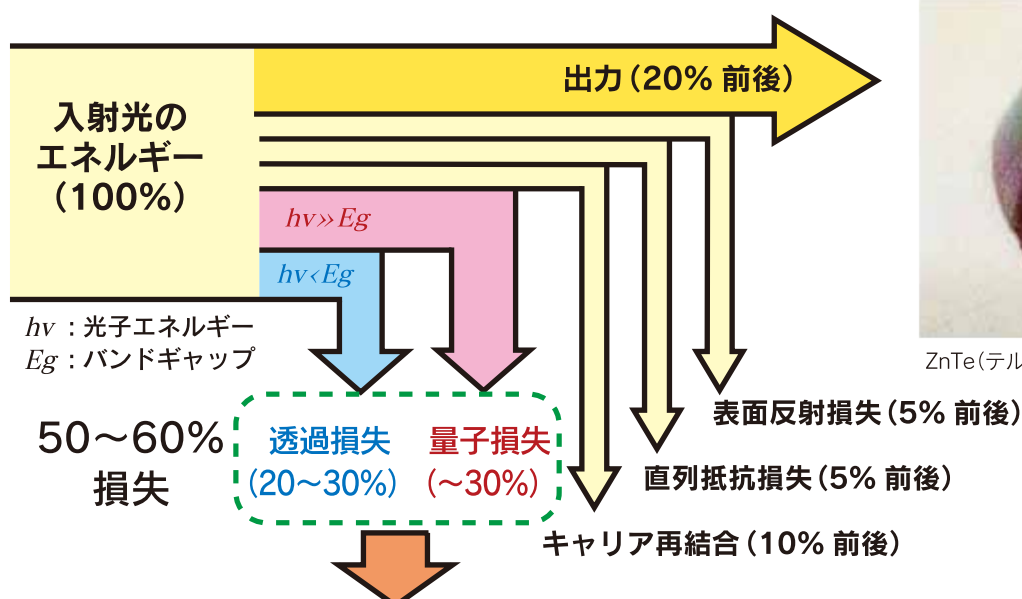
限りある化石燃料による火力発電と違い、自然の力を利用できて、地球温暖化も抑制できる再生可能エネルギーの中でも大きな期待を寄せられている太陽光発電は、近年世界中で急速に普及が進んでいます。太陽光発電に用いられる太陽電池のコストは年々低下しているものの、発電出力が天候に左右される不安定さや、発電のための変換効率の低さが課題となっています。そもそも太陽光は、100%エネルギーに変換できるわけではありません。これまでの太陽電池では、入射光エネルギーの50～60%は透過損失と量子損失で失われ、最終的にエネルギーに変換できるのは20%前後です。

（下の図を参照）。この損失を減らすことが、高効率化を実現するためのキーなのです。

太陽光が半導体にあたると、電子が励起（※）して高いエネルギー状態になり、電気を取り出すことができます。ただ、外部エネルギーを与えても電子が励起されないバンドギャップという領域があり、これを超えるエネルギーのない光は吸収されません。太陽電池の材料は現在シリコンが主流で、理論的なエネルギー変換の限界値は約30%です。そのため、もっとエネルギー変換効率の良い材料の研究開発が行われています。

変換効率を高める新材料の研究 研究成果で院生2人が受賞

私の研究室では、太陽電池の効率を高めるため、中間バンドの活用を研究しています。太陽電池内でエネルギー損失が生じるのは、バンドギャップに達しない光が通過（透過損失）して、大きすぎるエネルギーが熱に変わる（量子損失）ためです。そこで、バンドギャップの間に新たに中間バンドを作れば、これまで透過していた光まで吸収できて、



ZnTe(テルル化亜鉛)の結晶が鍵

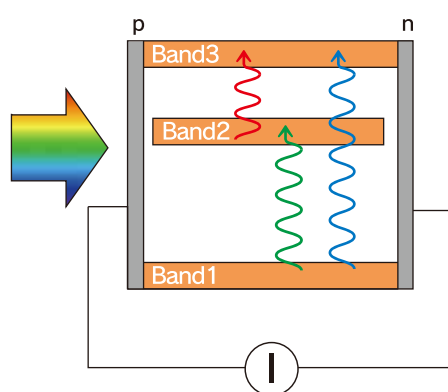
超高効率実現のためには、これらの損失を減らすことが必要

※外からエネルギーを与えられ、低く安定した状態から高いエネルギー状態へ移ること

変換効率は最大60%に達する可能性がありますが（右の図を参照）。この中間バンドは亜鉛とテルル、酸素からなる半導体で作ることができます。

最近、この母材となる材料 ZnTe（テルル化亜鉛）において、電気伝導制御に関するブレークスルーに成功し、本材料で

中間バンド型太陽電池



➤1 材料内に複数のバンド
→透過損失を減少

➤理論変換効率>60%



超高効率太陽電池のブレークスルーを目指す

達成していた最高効率を更新することに成功しました。これは中間バンド型太陽電池の開発にも応用可能で、波及効果が大いと考えています。

この成果により、私の研究室に所属する博士後期課程3年の Muhammad Mustofa さんが、第58回（2025年）応

用物理学会講演奨励賞を受賞しました。応用物理学会は日本有数の大規模な学会で、毎年の講演は約3500件にのぼります。講演奨励賞は、33歳以下のトップレベルの若手研究者に授与され、選ばれるのは全講演のわずか1%程度という非常に荣誉ある賞です。



太陽電池を作る様子。設備が充実しているため、電池づくりから評価まで研究室で一貫してできる

本学学生の受賞は20年以上ぶりでした。

また、24年は博士前期課程1年の末次祐太さんが、太陽光発電の国際会議に Poster Award を受賞。伝統ある国際会議で、ポスター発表508件のうち21件の授与に入るといふ快挙を成し遂げました。その成果により、佐賀大学学長賞にも輝きました。

後輩たちにとって大きな励みであり、良い道しるべになると確信しています。

世界最先端の研究がそうう環境でやりがいのある毎日

私はもともとエネルギー問題に関心があり、中学卒業後に高等専門学校に進学して、

電気電子工学を学び始めました。人生をかけてその分野に携わることができ、最善の選択だったと感じています。研究の中心にある半導体は、パソコンやスマートフォンなどさまざまな電気製品に使われており、人々の生活を豊かで快適なものにしてみました。そして現在、エネルギーや環境問題の解決にも貢献できる可能性が広がっています。

佐賀大学の各研究室で取り組まれている研究は独創性に富み、いずれもその分野で世界最先端の内容です。情熱を注げば、世界に誇れる研究成果を生み出し、国際的な舞台で発表できる機会が用意されています。ここで最先端の研究に挑戦し、人としても成長してほしいと願っています。



実験用に自作した太陽電池は5mm角ほど

「喜んでもらうこと」 それが私の原動力

イラストレーター 玉白花



小学生の頃から絵を描くのが大好きで、高校生のとき自作のシールを友達に喜んでもらえた経験から、キャラクターデザイナーを夢見ていました。大学進学時に農業を勉強したいという思いから佐賀大学農学部に入學しましたが、夢を諦めきれず、SNSでイラストを投稿するようになりまし。その後、親友のSNS用にプロフィール画像を



下からタマ、シロ、ハナ

今回学生広報スタッフがお話を伺ったのは、SNSを中心にイラストレーターとして活躍するアカウント名「玉白花」さん。農学部の4年生(令和7年8月取材時点)の玉白さんは、私たち学生広報スタッフの頼れる先輩でもあります。アカウント名は3匹の飼猫「タマ」「シロ」「ハナ」に由来するそうです。



商品のシールやアクセサリ



4種類のLINEスタンプ



本誌の読者プレゼントも作成

扱う商品は、シールやマグネットをメインにキャラクターの原画、ストラップやアクセサリなど。販売会以外にもメルカリやYahoo!フリマでも同様の商品を販売しています。オリジナルLINEスタンプもあるので、「玉白花」で検索してください。



販売会の様子

描いていると、徐々にDM(ダイレクタメッセージ)を通じて、イラストの依頼が入ってくるようになりました。今では「SAGAまちなか学生フェス」、「本庄おためし商店街」といった県内のイベントに積極的に参加して、販売会を行っています。

お客さんが商品を見て、「カワイイ!」と喜ばれたとき、いちばんやりがいを感じます。ある販売会で、まだ小さな女の子が小遣いを握りしめて、必死に計算しながらシールを選んでくれたことがありました。その姿に心を打たれ、この活動をやって本当によかったと実感しました。また、私の作ったマグネットを貼っている車を偶然見かけたときもすごく嬉しかったです。家族も活動を始めたときからずっと応援してくれて、家のいろいろな場所にマグネットやシールが貼られています。私のイラストがたくさんの皆さんの日常生活の中で生きていることが、活動への大きなモチベーションに繋がっています。





ありが糖運動公式ステッカー。
もちろんイラストは玉白さん作



農林水産省のイベントで実物の
かんみいと初対面！



「ありが糖運動」公式マスコットキャラクター「かんみい」
(農林水産省 Webサイトより)

以前インターンシップで知り合った方から農林水産省の「ありが糖運動」公式マスコットキャラクターの公募についてのお話を伺い、応募してみようと思いました。多くの人が見るキャラクターなので、親しみのある猫をモチーフにしました。そして「ありがとう」の言葉から「ハート」をイメージ、真っ赤ではなく、目に優しいピンク寄りの赤にしました。このキャラクターが感謝の気持ちを伝えるとき、背中のリュックの金平糖をプレゼントするというキャラクター設定にもこだわりました。

最終的にSNS上で絞られた3つのデザインで投票が行われ、その結果、私のデザインしたキャラクターが最多得票数を獲得して採用されました。名前は砂糖などの「甘味」から「かんみい」に決定しました。この経験は私にとって、大きな自信になりました。今後はさまざまな公募やコンペに積極的に挑戦して、有名になりたいです。



ショベルカーの運転もできる

将来の役に立てたらという思いから、色々なことに挑戦しています。学生広報スタッフもその一つです。他にもSAGA2024全国障がい者スポーツ大会のボランティアや聴覚障がいの学生の授業をサポートするノートテイク、手話サークル「しゅわっち」、佐賀県学生献血推進協議会「ちっち」でも活動しています。さらに、これまで取得した資格はフラワーアレンジメントや溶接、シヨベルカーなど全部で17種類。取れる資格は全部取りました。



玉白 花
公式 Instagram
@tama_shiro_hana



玉白 花
公式 X
@tamashirohana



取材を担当したのは、左から柏木未空（理工学部3年）カーンターシナナビハ（理工学部3年）

これからはSNSでの活動にもっと力を入れて、より多くの人に私のことを知っていただきたいと思っています。また、大学最後となる学園祭でも販売会を行う予定なので、皆さんぜひ遊びにきてください。





サガ大 そのサガ

人生に差がつく4年間

タグラインのロゴ。階段状に表記することで「差」を表現しています

タグラインの決定

この度、佐賀大学のタグラインが決定しました。タグラインとは、大学の理念や魅力を学内外へ発信するためのキャッチコピーとして位置づけられています。タグラインを決定するにあたり、教職員からアイデアを募集しました。その後、複数の案の中から選考が行われた結果、「人生に差がつく4年間そのサガサガ大」に決定しました。過去にTVCMでキャッチコピーとして使用され、教職員の間でも広く浸透していたことが採用の決め手となりました。今後は、さまざまなメディアを通じて積極的に活用していく予定です。

コミュニケーション マークの決定

タグラインの決定と同時に、佐賀大学では新たにコミュニケーションマークも決定しました。コミュニケーションマークとは、学章とは異なり、大学のアイデンティティを視覚的に表現するためのシンボルのこと。全国の国立大学の約半数が導入しています。佐賀大学のコミュニケーションマークは、学章よりもシンプルで、アルファベットの「S」をモチーフに、無限大のマークを組み合わせたデザインとなっています。この形には、「無限の可能性」や「無限の創造力」といった意味が込められています。現在、印刷物やWebサイトを中心に、学章からコミュニケーションマークへと移行しています。



SAGA UNIVERSITY

筆記体調の曲線は、しなやかに未来を切り拓くという意味を表しています

さきどり情報局 5年目に突入!

令和3年度から佐賀大学の公式YouTubeチャンネルで開始された「佐賀大学さきどり情報局」が4周年を迎えました!



「さきどり情報局令和7年9月号」では、両ナビゲーターが揃って登場し、4周年を祝福

このコンテンツは、佐賀大学の研究や取り組みを「分かりやすく」「なんだか面白い」と感じてもらえるよう、毎月コツコツと配信してきました。気づけばもう4年! 皆さまの応援のおかげでここまで続けてこられました。5周年に向けて、さらに充実した内容の動画をお届けできるようがんばります。今後も佐賀大学の「今」と一緒に楽しんでいただけたら嬉しいです。

佐賀大学基金ご寄附者芳名帳 (令和7年1月～令和7年6月現在)

佐賀大学基金へのご協力に、心より御礼申し上げます。
ご寄附いただきました方々への感謝の意を込めまして、ここに芳名を掲載させていただきます。

【佐賀大学基金】

内 田 泰様	加 藤 富民雄様	小 島 孝 之様	佐々木 栄一郎様	高 瀬 育 子様
岳 野 和 久様	中 西 新 二様	吉 田 恵 子様	他3名	

【美術館募金】

佐 賀 I D C様	香 西 繁 廣様	山 口 健司郎様	吉 原 和 博様	他2名
------------	----------	----------	----------	-----

【修学支援基金】

池 田 昌 彦様	浦 川 智 子様	庄 野 道 行様	竹 下 勉様	理研農産加工様
他3名				

【課外(ヨット部)活動支援基金】

副 島 駿様	田 中 里 紀様
--------	----------

【課外(漕艇部)活動支援基金】

雨 森 貞 浩様	大久保 秀 祐様	柏 田 知 美様	嘉 村 朋 顕様	岸 川 馨一郎様
木 村 直 也様	草 野 脩 平様	鈴 木 光 志様	広 瀬 正 和様	馬 島 基 則様
松 藤 祥 平様	三 根 大 悟様	三 好 篤 様	安 武 結 衣様	雪 本 薫 平様
他12名				

【課外(熱気球部)活動支援基金】

本 多 晃 一様

【課外(軽音楽部)活動支援基金】

副 島 英 伸様	東 加奈子様
----------	--------

【課外(準硬式野球部)活動支援基金】

尾 形 善 康様	加 治 亮 平様	神 田 佳 洋様	古 賀 隆 太様	西 川 英 夫様
平 田 祐 造様	本 村 友 一様	諸 隈 宏 之様	他3名	

お問い合わせ先

佐賀大学基金事務局 〒840-8502 佐賀市本庄町1番地
(佐賀大学総務部総務課内) TEL 0952-28-8390 FAX 0952-28-8118
E-mail kikin@mail.admin.saga-u.ac.jp
URL https://www.kikin.saga-u.ac.jp

■五十音順にて掲載しております。

■お名前の公表をご希望されていない方につきましては、人数のみ掲載しております。万が一お名前が漏れている等の不備やお気付きの点等がございましたら、誠に恐縮ではございますが、佐賀大学基金事務局までご連絡ください。

いただいたご寄附により、奨学金の給付、課外活動の備品購入等に使用させていただきました。今後とも更なるご支援のほどよろしくお願いいたします。

また、多数の卒業生からもご寄附をいただいておりますが、卒業生への広報活動には佐賀大学同窓会のご協力をいただいております。この場を借りて御礼申し上げます。



佐賀大学校友会は、在学生の海外留学、国際活動や課外活動、ボランティア活動などで頑張っている学生への支援を行っています。

佐賀大学校友会では会員になっていただける方を募集しています。

校友会事業の詳細については、佐賀大学校友会HPに掲載しております。

佐賀大学校友会の活動についてご賛同いただきご入会いただきますようお願いいたします。

詳細はこちらでご確認下さい。

佐賀大学校友会HP <https://koyukai.admin.saga-u.ac.jp>

●会員制のため、ご芳名は公表していません。

問い合わせ先

佐賀大学校友会事務局

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地
(佐賀大学総務部総務課内)

電話 0952-28-8390 FAX 0952-28-8118

E-mail : koyukai@mail.admin.saga-u.ac.jp

- ・入場無料
- ・休館日：月曜日（祝日の場合、翌火曜日）
- ・開館時間：10時～17時（入館は16時30分まで）

SUAM / ROOT Vol.3 遠藤夏香 — 景色を知る / 地図をなでる —



遠藤夏香《良い土地》2025年 A画用紙、アクリル絵具、コンテ、ジェッソ 34.5cm×34.5cm 作家蔵

会期：2025年10月3日（金）～2026年2月15日（日）
会場：特別展示室

九州を拠点に活動をする若手・中堅アーティストを個展形式で紹介する企画展「SUAM/ROOT」。第3回目となる本展では、群馬県出身で現在は佐賀市を拠点に活動を行う遠藤夏香を紹介します。遠藤はこれまで、他者もしくは自身が残した記憶・記録や言葉など、過去や歴史に対し、身体を基軸として制作を行ってきました。指に直接絵具をとり、紙に触れて描き出す手法によって作り出される作品は、目に見えない記憶や感情をたどった痕跡のようにも感じられます。あいまいでつかみにくいものを、身体を通して感じ取り、作品というかたちにする。それによって、遠藤は確かな実感を得ています。情報があふれる現代だからこそ、私たちにとって『実感すること』の意味や、創造性の豊かさに改めて気付かされるのではないのでしょうか。



触れる、手繰る手つき

本展では「触れる」をテーマに、様々な表現者のその手つきをたどります。美術家や工芸家自身も素材や道具、または歴史や記憶といった対象に「触れる」という感覚から創作が出發することも多いことでしょう。そして、それは私たちの感覚にも通じるため、時に心動かされ、言語化しにくい原初的な感覚を引き起こすのかもしれない。また、「触れること」は身体的接触だけではなく、自己の内面、感情や記憶、または歴史や文化など形を持たないものに向き合うことでもあります。それは感覚を頼りに自らのもとへ手繰り寄せる行為であり、自己や他者、そして世界との実感を伴った向き合い方につながるはずです。多様な側面から私たちの感覚、そして創造力を通して物事に触れることについて考えるきっかけとなることを目指します。



ブブ・ド・ラ・マドレーヌ個展「人魚の領土—旗と内臓」オオタファインアーツ、東京（2022年）、国立国際美術館蔵、撮影：鐘ヶ江欽一、© BuBu de la Madeleine. Courtesy of Ota Fine Arts.

会期：2025年10月3日（金）～11月30日（日）
会場：1階 ギャラリー 1、ギャラリー 2、スタジオ



マグネット（小）
詰め合わせ



3名

2～5 cmのかわいいマグネット。

マグネット（大）



7名

10cm程度の車用マグネット。

ミニフレーム



1名

手のひらサイズの木製フレーム。

強力シール
詰め合わせ



3名

車に貼れて雨でも剥がれないシール。

剥がせるシール
詰め合わせ



3名

きれいに剥がせるタイプのシール。

シール
詰め合わせ



3名

2～5 cmのフレークシール。

合計20名様に当たる！ 読者プレゼント

読者アンケートにお答え頂いた方の中から抽選で合計20名の方に、イキイキ佐大生で紹介した「玉白花」さんに提供いただいたオリジナルグッズをプレゼント！
Webアンケートに回答してご応募ください。応募期間は12月末日迄。当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。
たくさんのお応募をお待ちしています！



Webアンケート